

踏まれ踏まれても生き返る

NO.22 2025.4.4

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

com-matcham@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」

地域自主活動グループのページでも閲覧できます。ほかのグループも見てください→ <http://ow.ly/nqgc50AoMDs>

散歩の視点が変わったのか？！ こんなところに見つけた小さな自然

昨年11月に発覚した糖尿病は、投薬と食事制限で、血糖値は何とか平常に戻すことができていて、少し歩くと激しい動悸に襲われていた状態も治まってきているのですが、腰痛は激発状態。今年の赤塚公園ニリンソウ月間は完全に足が遠のいて「ごめんなさい」。近所の散歩だけを出来るだけ続けているのですが、それもこの春の不安定な気候でままたまならず、「やっぱり歳とったなあ」の毎日です。

そういう状態での散歩は、道端の野草を観る眼も変わってくるのでしょうか、結構、面白い発見があります。

民家の玄関先花壇にニリンソウとジロボウエンゴサクの群落が・・・



民家の玄関
前花壇にニリンソウの群落を発見。円内左下のみどりの葉がそれです。白く見える花はニリンソウではなくクロッカス

のようで、黄色の花はリュウキンカ（またはヒメリュウキンカ）です。この家の主はかなり野趣のある人ようです。さらにびっくりしたのは、右のほうに視線を向けたらなんとジロボウエンゴサクの大きな群落が広がっているではないですか！ 赤塚公園以外でジロボウエンゴサクを見つけたのは初めてのことです。いずれも、この家の人が大事に育てている園芸花壇なので「山野草」とは言えないのですが、それでも、とてもうれしい気持ちになりました。

いつもの散歩道、いつもきれいに草刈りされている場所に 刈り残しのスポット・・・、そこには小さな花が残っていた！

ホトケノザにカラスノエンドウ、ミチタネツケバナからナズナまで野草が次から次へと咲いてくる街路樹の下の露地。「へーッ、元気だねえ」と思っていると、必ずきれいに除草されて、茶色の丸裸の土になってしまのですが、どういうわけだか、刈り残しがある場所がありました。

そこを覗き込むと、写真でははつきりしませんが、野生化してさらに小形になったビオラの小さな花が咲いていて、さらに小さなトキワハゼとキュウリグサ。どうも、花が咲いている野草を残して草刈りがされたと思われます。



草刈りをした人の真意は分からないし、「山野草を残そう」なんて贅沢なことは言いませんが、こういう「野草」を残した草刈りには拍手を送りたいと思います。

歳をとって、重い交換レンズカメラはつらい！ だからと言って、安いデジカメにするとどうなるか？

2/24付けのNo19で紹介したスマホのカメラにクローズアップレンズを付けての撮影ではかなり高画質の写真が撮れるのですが、しかし、スマホのカメラは片手でスマホを保持しながら、もう一方の片手の指で画面のシャッターボタンを押さなければならず、従来のカメラとは大違いであることなど、結構扱いにくいものです。それでは、軽便なコンパクトデジカメに切り替えようと思ったら、なんと最近のコンデジは10万円以上もして、やたらに高いことが分かりました。カメラ性能の強化でスマホに対抗しようとしているのかも。



そこで、ネットを検索すると1万円台の安いコンデジが紹介されていました。子ども向けの「キッズカメラ」という部類に入るものですが、画素数6400万画素で「なんか良さそう」。なので、買い込みました。

本号で紹介している写真は全部、そのカメラで撮ったものですが、見た目は写真になっていても鮮明さに欠けています。画素数の多さと画質の細かさは別物なのです。ほかにも問題があって、結局使い物にならず。

左の写真は我が家の玄関先のシクラメンに雨粒がたまっているところですが、これが限界。